

第4回 八王子市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会 高齢者計画・介護保険事業計画策定部会 委員からの意見と回答

No.	ご意見・ご質問等	回答
その他		
1	<p>「はちまるサポート」についてですが、やや一般的なものになってしまっていますが、地域資源である「はちまるサポート」は前回の認知度調査では、かなり低くなっていることが気になるわけなのですが、重層的支援体制整備事業は包括的な支援体制を構築するため、「属性を問わない相談支援」の先頭に立つところではないかと思えます。調査では、生活困窮者自立支援制度とほぼ同じくらいにあるように思えます。しかし、生活支援の相談者はかなり多いようです。本当に困って相談を受けたいということだったので、しょうか。</p> <p>はちまるサポートの立地も(私の地区に限りますが)高齢者にはかなりの登りになり、きついと思えます。それにいちばんの認知度の低さは、その名前にあるような気がします。何回か通っている方や、知人から聞いてよく知っている人は問題ないと思えます。しかし、ほとんどの方は「はちまるサポート」って何だろう?ではないでしょうか。例えば、今から変えることは難しいとは思いますが、「はちまるサポートなんでも相談センター」とでもしたほうが、分かりやすさから言えば理解しやすいのではと考えます。一方、「あんしん相談センター」は誰に聞いても分かりにくいという方は、今まで一人もいません。「はちまるサポート」に関しては増やす話は出ますが、分かりやすくすることや立地を考えることは話題になりません。折角なんでも相談できる場所を、もっと活用しない手はないだろうと思えます。</p>	<p>現在策定中の第4期地域福祉計画において、はちまるサポートの設置根拠となる「重層的支援体制整備事業」の整理と機能強化について検討を行っております。</p> <p>この中で、はちまるサポートの認知度が低いことや、属性を問わない相談窓口を充実することについては、以下の3つの方向性で進めていくことを検討しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 重層的支援体制整備の更なる充実に向け、お近くの様々な相談機関（高齢者あんしん相談センターや子ども家庭支援センターなど）でも属性を問わない相談を受けられる体制づくりを進めます。※どこで相談を受けても、支援機関同士が連携して適切な支援につなげる仕組みづくり</li> <li>② はちまるサポートの利便性向上に向け、高齢者あんしん相談センターとの併設に向けた移転を進め、包括的な相談体制の強化を図ります。</li> <li>③ 認知度向上に向けた計画的な周知を行います。</li> </ol>
2	<ol style="list-style-type: none"> <li>①C06アウトカム④「メンタルヘルス専門職等～」を受けて、介護者や当事者が定期的に行く「かかりつけ医院」・「認知症専門病院」・「薬局」等で、認知症カフェや家族会を知る機会を得て、ピアサポートにつながる事が出来ればと思えます。</li> <li>②認知症基本法案にある「認知症の人同士、家族等同士が支え合うために交流する活動に対する支援」を行うための認知症カフェ・オレンジドアの増設を希望します。</li> <li>③「認知症サポーター養成講座」に関して、受講される方々の認知症への関心が高まっている事は感じますが、「サポーター」に対する捉え方が皆さんそれぞれ違います。認知症の理解に加え、予防や共生に関しても内容に盛り込めたら、より自分事として（自分達のためにもチームオレンジを作ろうなど）考えてもらえるのではと思えます。</li> <li>④C07「認知症高齢者見守り事業（仮称）」と「意思決定支援」の具体的な例をお知らせ下さい。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①貴重なご意見ありがとうございます。令和5年3月に認知症カフェや家族会を紹介したガイドブックを作成した中で、医師会や薬剤師会と調整し、ガイドブックを医療機関や薬局の待合室等に設置してもらえる協力依頼をしたところです。しかし、ピアサポートにつながるまでの認知度には至っていないと考えており、引き続き、介護者や当事者に情報が届くよう普及啓発を進めてまいります。</li> <li>②貴重なご意見ありがとうございます。認知症の人同士、家族等同士が悩み等を共有するとともに、情報発信ができる認知症カフェ、おれんじドアの機会は重要だと考えております。地域で担える当事者や社会資源を発掘しながら活動の増設できるよう支援を進めていきたいと思えます。</li> <li>③いただいたご意見のとおり、認知症を「自分事」と捉えてもらうことは、認知症との共生社会の実現に向けて重要だと考えております。認知症サポーター養成講座を実施する高齢者あんしん相談センター職員や認知症地域推進員と調整を図りながら、講義で予防や共生の分野を手厚くするなど、より自分事と思ってもらえるよう講座内容の工夫をしていきたいと思えます。</li> <li>④「認知症高齢者見守り事業（仮称）」…見守りシールやGPS探索機器貸与事業等のことです。「意思決定支援」…社会福祉協議会が運営している成年後見・あんしんサポート八王子による相談支援や成年後見制度の活用等になります。なお、現在、ロジックモデルの再検討をしており、ご質問いただいた事業については位置づけが変わる可能性があります。</li> </ol>